

東京「市政会館」合同調査

公益財団法人後藤・安田記念東京都市研究所（旧称：東京市政調査会）に於いて、同研究所と東北大学伏見岳人教授、『都市問題』編集部、後藤新平記念館による合同の資料調査が行われました。初めて目にする写真も・・・。

【歴史を見つめてきた東京「市政会館」を合同調査】9月9日（月）

1922年2月、安田善次郎の遺志を継いで、市政会館・公会堂設立が認可されました。後藤新平の念願でもあり、彼自らが調査会会長となりました。

新平の死後、昭和6年4月、斎藤實を会長とし、伊東巳代治や石黒忠恵、犬養毅、若槻禮次郎、阪谷芳郎を顧問とした「後藤新平伯伝記編纂会」が組織されました。事務所がこの市政会館に置かれ、編纂作業がスタートしました。

「後藤新平伯伝記編纂会日誌」が残されており、この市政会館に通いながら綴られた担当者の記録が、歴史の一頁を垣間見させてくれます。編纂会会長の斎藤實が凶弾に倒れた日の記録もそうです。

《二月廿六日（水）》今日もまた雪霏々たり：九時出勤。エレベーターボーイ、「何事もなく来られましたか？」と。何のことも分からず。訊せば、今朝、一部の軍隊出動して、渡辺教育総監、高橋蔵相、斎藤内府、岡田首相、其他数人の名士を襲ひ殺傷したりといふ驚くべき怪報なり。種々人々に問訊せど、真相らしきものには却々触れず、すべて流言蜚語の類なり。併し乍ら、デマとは云え兎に角ただならぬ世上の模様、不安と昂奮とに心落ちつかず。仕事も手につかず。さりとして弥次馬となりて様子を確めるほどの気持ちも起きず。また、事件の中心地と目されたる一帯はすべて交通遮断、機関銃を据えつけたる兵士、街上に警戒線を張れりと。四時早々退室す。雪尚やまず。

この研究所の改称前の名称は、「東京市政調査会」です。「伝記編纂」時に資料が整理され、リスト化されました。昭和53年岩手県水沢市（現：奥州市）に「後藤新平記念館」が設立されました。その際、多くの資料が東京市政調査会から記念館に寄贈されましたが、一部、何らかの事情により残されたものがありました。

それらの後藤新平伯伝記編纂会資料が、市政会館内に収蔵されているとのこと。今回、その一部の画像のデータ化（スキャナ撮影）作業を行う機会に恵まれました。参加者は、「都市問題」編集部・東北大学伏見岳人教授・後藤新平記念館中村淑子学芸調査員です。

額装写真や絵画、後藤伯揮毫扁額のほか、未整理の貴重なポートレート3箱分のうち、時間的に1箱分のデータ取得が限度であったため、デジカメでアルバムを広範囲に撮影しました。今後、撮影画像を集約し、画像資料全体像の把握と記念館収蔵写真との照合を目標としています。

左の写真は、その時撮った写真の1枚です。
（「大正12年8月23日淡路永田秀次郎宅」の裏書がある。）



【中学生が水沢 TV で職場体験（当館を取材）】9月5日（木）

水沢テレビで2日間の職場体験をしている東水沢中の女子生徒3名が、取材対象として当館を訪れ、2名のテレビ局職員からインタビューの仕方、機材のセッティングの仕方等、様々な指導をいただきました。その後、テレビ局に戻って編集作業を行い、まとまった作品が電波を通して各家庭に届けられました。ローカルテレビ局ならではの丁寧さと早業です。（左は放送映像）



取材から放送まで 中学生が体験

